



Title	『歐洲の改造』
Author(s)	馬場, 誠
Citation	商業と経済, 5(2), pp.259-270; 1925
Issue Date	1925-02-01
URL	http://hdl.handle.net/10069/26814
Right	

This document is downloaded at: 2019-02-23T11:05:28Z

以上世間の學を愛せらるゝ、人士に對しこの書の價値の如何に大なるかを御紹介するため、この文を草した次第である。(大正十三年十二月十三日)

『歐洲の改造』

人若しあつて世界戰爭以後の歐羅巴經濟事

情を知るに最も重要な資料は何ぞと問ふあらば、吾人はマンチエスター・ガーデアン・コンマーシアル紙の附録『歐洲の改造』十二冊を奨むるに躊躇せない。“Manchester Guardian Commercial” Reconstruction in Europe. 1917

劍橋大學教授ジョン・メーナード・キーンズ氏 John Maynard Keynes の編輯に係る。大判紙數七百八十二、寄稿者數實に二百四十

一、悉く歐洲各國當代の名士、専門教授の執筆に係る金玉の文字である、每號英語の外獨・佛・伊・西の四ヶ國語を以て刊行せられた。

恰かも自分が本邦を出發した大正十一年四月に第一分冊が……而して其後毎月一冊宛發

行せられたのであつた……自分としては特に
思出多き大文献である。(馬場)

第一分冊

一 序 言

編輯の辭——『歐洲の改造』刊行祝詞。

二 外國爲替問題

歐洲爲替の安定——爲替原理及び『購買力平價』——倫敦
爲替市場叙述——外國爲替の先物市場——英米貸借差額——
歐羅巴の弗爲替相場と季節的變動——法の高底——リ
ラ爲替——馬克爲替と其安定問題——獨逸國の對世界支拂
勘定——獨逸の爲替管理——スカンデナヴィア爲替——留
爲替に就きて——バルチック諸國の爲替——波蘭の爲替——
東部ガリシア村落の貨幣及び爲替——繼承國の爲替市場
としての維也納——チエツコ・スロヴァキアの爲替關係——
羅馬尼亞の爲替——勃爾牙利の爲替——洪牙利の爲替——
希臘の爲替——土耳其の爲替——金供給の現在及び將來——

―歐洲の銀行券。

三 バロメーター

英・米・佛・伊・自・獨の商業狀態測定圖表及び數表―倫敦政治經濟學校(倫敦大學)及びハーヴァート大學經濟研究部作成―在歐洲大陸諸囑託補助。

第二分冊

一 改造の原則

歐洲の改造(總序論)―經濟的メタフイツック。

二 大洋海運と歐洲商船界

海運及び造船の不況―商船業の過去及び現在―戰後佛蘭西商船の回復―地中海に於ける佛蘭西の經濟的利益―フイツメの經濟問題―今日のフイツメ―獨逸海運の現在及び將來―米國の經濟政策と同國船舶院―世界海運業の中心としての倫敦―海運統計―歐洲海運界に於て著名なる船長。

三 バルチツク海及び獨逸諸河川

戰後に於けるバルチツク海運及び貿易―東部バルチツクの冬季交通―ヴェルサイユ條約の獨逸河川系統に及ぼしたる影響―萊因河と獨逸の利益。

四 ダニユーフ河と黑海

ダニユーフ河の水運―國際貿易路としてのダニユーフ河―チエツコ・スロヴァキアの内國水運―黑海貿易の回復―コンスタンツァ港。

五 バロメーター

米國の工業生産高に關するハーヴァート・バロメーター等

第三分冊

一 セノア會議

セノア會議―セノア・佛蘭西及び歐洲の平和―セノア會議の經濟・財政決議―合衆國と改造問題。

二 埃地利國問題

埃地利財政一斑―埃地利クローネ貨の問題―埃地利に對する財政干渉。

三 歐洲の纖維工業

羊毛原料供給の現在及び將來―原棉供給・現在及び將來―英國毛織工業―毛織物貿易の回復―ランカシヤイヤー綿業の對歐貿易―佛蘭西の綿業―伊太利の纖維工業―伊太利の綿業に就きて―獨逸の纖維工業―チ

エツコ・スロヴァキアの綿業——塊地利の纖維工業——ロ
ツブの纖維工業。

四 財政問題と爲替問題

寄書(法の變動と佛蘭西の經濟回復——土耳其爲替)——
ユーゴ・スレーヴィアの爲替——外國貿易に關する妄論。

五 バロメーター

米國綿業と財界週期。

第四分冊

一 露西亞—西歐及び北米の

之に對する態度

露西亞——對露暫定政策——露西亞の復興と歐羅巴の將
來——露西亞及び歐羅巴の改造(伊太利の見界)——勞農露
國に對する米國労働者の態度——勞農露國に對する 米國各
種輿論——セノア會議と露西亞——露西亞問題と羅馬尼亞

二 勞農露共和國經濟政策の

當局者に依る説明

勞農露國の政治發達——近き將來の露國工業——露國の
農業——露國運送業の現下狀態——勞農政府の財政政策——
露國の労働力本源——露國労働立法の改正。

三 露西亞の飢饉

四 露國の社會的・精神的生活

智能階級と革命——勞農露國に於ける修養問題——革命
露西亞の大學生活と新聞。

五 外的資料に依る露西亞の

經濟事情

露國の鐵道狀態——露國の幣制及び銀行——寄書(對露
英國貸附)。

六 石 油

英米關係と石油——石油工業現況——石油問題の政治的
方面——セノア會議と石油問題——露西亞の石油資源——
石油の産出と消費——ガリシア油田——土耳其油田。

第五分冊

一 歐洲の財政

課税の一方としての通貨膨脹——英國豫算——英國勞
働黨の財政政策——英國議會の財政監督——佛蘭西の財政的
地位——佛國豫算——佛國資本徵收策——伊國財政の將來
——獨逸豫算——獨逸の直接國稅と行政改革——戰後獨逸

の政府補助策——獨逸の強制公債政策——ユーゴ・スレイヴィア國財政——羅馬尼亞國財政——バルチツク諸國——エストニア・ラチエヴィア・リトウアニアの財政的地位——波蘭國の財政——勃爾牙利國財政——勃牙利亞の公債——土耳其國の財政。

二 關稅及び其他貨物移動に

關する障害

歐羅巴に於ける國際的投資の自由——米國關稅問題——金貨馬克に依る獨逸關稅——獨逸輸出管理制度——中歐及び東歐の商業政策——羅馬尼亞の關稅政策——戰後ユーゴ・スレーヴィアの商業政策——寄書(波蘭の爲替相場に就きて)——伊太利國の國債。

三 騰貴 (La vie chère)

貨幣價値の變動が社會に及ぼす影響——説明(ボンチ畫家と生計費)

第六分冊

一 人口問題

經濟政策家の人口に對する見界——哲學の見地より見たる人口論——歴史家の人口に對する見界——一九二一年英國國勢調査と其が與へたる教訓——戰後佛蘭西の人口統計

——獨逸の戰後人口——チエツコ・スロヴァキア國人口——境地利國人口——維也納の人口——日本の人口問題。

二 農業問題と食糧供給

世界の小麦供給と之が露西亞及び東南歐羅巴に及ぼす影響——戰後の佛蘭西農業——獨逸の食糧供給——中歐の砂糖産出——ダニエーブ河下流の食糧供給に關する經濟價値——羅馬尼亞穀類收穫超過の輸出。

三 東歐の農業者革命

農業革命——中歐及び東歐の農業革命と其の經濟的結果——新勃爾牙利國と強制労働——ユーゴ・スレイヴィアの土地改革——波蘭及びバルチツク諸國の農業問題——露國の農業問題。

四 バロメーター

北米合衆國の商品價格。

第七分冊

一 鐵道

鐵道・自動車及び飛行機と其等の將來——英國鐵道の現狀——歐羅巴の運輸問題——佛蘭西國の鐵道——戰後獨逸鐵道の能率及び之が回復費用——バルカン諸國の鐵道狀態

——ガニューア河北部の鐵道系統——ノイリ條約の影響を受けたる勃爾牙利の鐵道系統——バルカン諸國——エストニア・ラタヴィア・リトアニアの鐵道運輸——波蘭鐵道の重要性。

二 石 炭

最近英國の石炭工業史——英國の石炭經濟問題——佛蘭西の石炭政策とヴェルサイユ條約——ザール鑛床——獨逸石炭經濟問題と賠償引渡——セネガア決議並に獨逸條約の影響を受けたる上部シレジア石炭及び金屬工業。

三 鐵鋼及び機械工業

歐洲鐵鋼工業の新勢力權衡——英・佛・白・獨・米の鐵鋼價格及び生産費——工業進歩表標としての鐵鋼の產出——戰爭が英國の鐵鋼工業に及ぼしたる影響——戦後に於ける英國機械工業の地位——伊太利鐵鋼工業の危機——獨逸鐵鋼工業と鐵鑛の供給——戦後獨逸機械工業の發達——佛國金屬工業の發達——チエッコ・スロヴァキア國の鐵業。

第八分册

一 賠償問題

今日賠償問題の解決可能なりや？——追録(佛獨側の解決三提案)——聯合國間債務及びバルフォア・ノート——賠

批評紹介

償問題に對する米國の利害——佛國の輿論二——賠償問題に就きての獨逸の政治的態度——ヴェルサイユ條約に依る獨逸の各種支拂及び之が獨逸財政に及ぼす影響——ウヰンバーデン及び其後の協定に依る獨逸の實物引渡——賠償と關稅——馬克の投機と獨逸の在外バランス——保障委員會の構成及び義務——奧地利繼承國の免除支拂——洪牙利國は支拂可能なりや？勃爾牙利の賠償問題——勃爾牙利賠償委員會の政策。

二 損害地域

佛蘭西國政府の政策と損害地域の恢復經費——白耳義の復舊——塞爾比亞と賠償問題——羅馬尼亞の戦害——ラトヴィアの戦害及び復舊——東部普魯西の恢復。

三 聯合國は幾干まで自己の利益を害せずして、獨逸をして支拂はしむることを得可きや。(六教授寄稿)

四 寄 書

羅馬尼亞の農業改革及び農産額。

第九分册

一 歐羅巴の勞働政策

二六三

英國勞働黨の改造政策——如何なる程度まで英國の勞働黨は社會主義的なる乎——佛國社會黨の發達と其の將來——獨逸の勞働運動——國際勞働と其の機關——國際勞働機關の事業と其の重要性。

二 歐洲勞働者階級の物質的狀態

英・佛・獨・白・米の貸銀比較——現下歐洲の實質貸銀と二九一四年の貸銀との比較——不景氣時代に於ける歐洲の失業狀態——失業と其の處置——英國の緊急問題——佛國の失業對策——貸銀低落——國家の處置要望すべきか——英國農業勞働者の地位——工業勞働の獎勵——利潤分配と管理參加——獨逸勞働者階級の生計——獨逸に於ける社會化——伊太利勞働組合運動の危機——フアスシスト運動と其の將來——チエツコ・スロヴァキアの工業勞働狀態——露西亞の勞働。

三 石油（第四分冊に續く）

石油工業——世界の石油狀態に對する米國意見——英國に於ける石油精製工業の經濟的意義——パクー石油工業——英國の發動機燃料需給と價格——基本的化學工業に於ける英國の勢力。

第十分冊

一 合衆國と歐羅巴

歐羅巴と亞米利加——對米英國債務の辨濟——米國輿論と國際聯盟——戰債如何なる條件を以て米國は歐洲を救済することを得るや？——合衆國と歐洲現狀——國際的賠償貸附と米國の參加豫想——米國農業と歐洲の狀態——食料輸出國としての北米合衆國の將來——アングル・サムの黃金政策——合衆國の國際的支拂權衡——フーヴァー氏に依る米國の歐洲援助——カーネギー基金と改造——猶太人の戰時罹災者に對する米國救援——米國及び歐洲の文化的相互關係。

二 歐洲移民

北米新移民法——主要歐洲諸國の移民政策——戰後の伊太利移民——チエツコ・スロヴァキアの對米移民——移民が海運業の隆盛に及ぼす影響。

第十一分冊

一 爲替の安定

歐洲爲替の安定——キーンズ氏の減評價提案批評三種——減評價對通貨收縮——國際爲替の眞實比例——獨逸に於ける新爲替規則——佳金。

二 歐羅巴銀行業

英蘭銀行と『五大』銀行——銀行業に對する國家の監督

——佛國信用機關——現在の伊太利銀行業——獨逸帝國銀行の割引政策——紙貨又は金貨に依る貸借對照表——和蘭の金融狀態——和蘭の銀行問題——瑞西の銀行及び金融——西班牙の金融——チエツコ・スロヴァキアの財政策——同國の銀行業——埃地利の新銀行狀態——波蘭の金融及び財政——證券の印刷。

三 歷史的英蘭銀行

銀行の建築史。

第十二分冊

一 結論及び要領——

歐羅巴に於ける輿論狀態

伏在せる原理——佛國識者の改造問題に對する態度——獨逸文化の殘存——中央歐羅巴の改造問題——羅馬尼亞——英獨精神——獨逸の回復可能なりや——埃地利の前途——實業家と改造問題。

二 軍備制限と平和

聯盟の大事業——軍備制限の政治的代價——平和——平和。

三 改造文獻

批評紹介

大英改造文獻涉獵——佛國の經濟改造文獻——獨逸の經濟改造文獻——コミュニスト改造文獻——英國勞働改造文獻——貨幣及び外國爲替文獻——政治改造文獻——農業改革文獻——戰爭の經濟史社會史。

四 索引——筆者別總分冊索引

シーホルト先生
渡來百年記念
論文集

長崎シーホルト先生
渡來百年記念會發行

同書卷頭なる、同記念會長堀内秀太郎(當時長崎縣知事)の序文に曰く。

寬永鎖國以來昌平歲久しく、桃源の夢將に酣なるの時に當りまして、我國の先覺者をして長夜の眠より覺醒せしめましたのは我がフライリツプ・フランツ・フォン・シーホルト先生の努力の結果でありました。泰西の文物を輸入し、我が國に於ける近世文化の基礎を確立せしめましたのも亦先生でありました。我が國情を世界に紹介し、列強をして我が帝國が信頼するに足る高度の文明國

たることを知らしめ、幕末國家多難の際幾多の便宜を我が國に與へましたものも亦先生でありました。王政維新の際世界の列強をして朝幕の關係を知らしめ、勤王の志士が外國の壓迫を受けずして復古の大業を遂行する事が出来ましたのも、亦先生に負ふ所蓋し尠少でなかつたのであります。之を要するに先生は廿八歳の壯齡を以て出島なる和蘭商館の醫官として初めて我が長崎に渡來せられて以來、七十一歳の高齡を以て此世を去らるゝに至るまで四十餘年の久しきに亘り、斷へず深厚なる同情を寄せられ我が國の爲に貢獻せられた所が非常に多かつたのであります。先生の如きは實に學界の恩人たるのみならず、實に我が國家の一大恩人と謂はねばなりません。云々、

此の一大恩人の我國に渡來以來大正十二年が丁度其の滿一百年に當るが故に其の恩德功績を追憶して之を記念する各種の事業を行はんとして記念會を組織し、種々計畫する所が

あつたが、然るに同年九月一日には關東に古今未曾有の大震災が起り、帝都も其の災厄に罹りたる爲め、一時頓挫し、本大正十三年四月二十七日に愈盛大なる記念式が長崎市なる鳴瀧の先生舊宅址に擧げられたのであつたが本論集も亦其の事業の一部として編輯せられたものである。其の内容は次の如くである。

一、序 文

本會長長崎縣知事 堀内秀太郎

二、シーホルト先生略年譜

長崎高商教授 武藤長藏

三、醫學者としてのシーホルト先生

醫學博士 吳 秀三

四、歐洲に於けるシーホルト先生

ドクトル コイヘル

五、シーホルト先生より日本學生に贈りたる書翰

譯者ドクトル コイヘル

六、シーホルト先生採集日本産柑橘標本に就て

九州帝國大學農學部講師 田中長三郎

七、シーホルト先生渡來の目的と日本に於ける交友

文學博士 村上直次郎

八、シーホルト先生と福岡藩人

縣立福岡圖書館長 伊藤尾四郎

九、我國最初の商業學校創立計割者としてのシーホルト先生

長崎高商教授 武藤長藏

十、シーホルト先生の大坂芝居見物 理學博士 白井光太郎

十一、シーボルト先生孫女山脇タカ子刀自の談話

尙ほ挿圖としてはシーボルト先生肖像、應舉筆長崎港、長崎出島、長崎郊外鳴瀧なる先生の邸宅、安政再渡來の先生と長子アレキサンダー、明治十二年建設の長崎諏訪公園内の先生の記念碑、先生建設のケンベル及ツンベルグ記念碑、獨逸ウエルツブルグに於ける先生の胸像、先生採集して歐洲に持歸られたる柑橘標本、薩摩侯島津重豪肖像、同筆蹟、先生及出島甲比丹の大阪に於ける芝居見物等に總百八十八頁に過ぎざるも、執筆者は皆な其々の方面の名流で、シーボルト先生記念論文の筆者として最も適當な人々を網羅して居ることであるから、何れの論文も皆な有益なものであるが、特に吾人の注意を引きたるものは、ドクトル、コイベル氏の『歐洲に於ける先生の日本開國運動』及び同氏譯の『シーボルト博士より日本學生に送りし書翰』九大農學部講師田中長三郎學士の『シーボルト採集日本産柑橘標本に就きて』及び同僚武藤教

授の『我國最初の商業學校創立計劃者としてのシーボルト先生』等である。ドクトル、コイベル氏の論文は本論集中最も長篇たるもので、『先生の日本開國運動』は其の第二章で三十頁に渉るものであつて、其の中には先生の日本對外條約に關する私案もあり、先生が和蘭國總理大臣トルベックに送つた對日意見書等もある、其の意見書には日本の政治的大變革を豫見し、之に對する對日忠告に關する事等を委曲に記述してあつて、當時の日本の對外關係と之に對し、先生が如何なる考を有し如何に盡力せられたかを明かに知ることが出来る。『日本學生に送りし書翰』の中には醫學又は博物に關し、其の弟子の質問に答へ又は教示したるもので、學術的に興味あると同時に懇篤なる師弟の情誼が表れて居て、一讀人をして感懷を催さしむるものがある。田中農大講師は我國に於ける柑橘學の權威者たること世の定評ある所であるが、此稿は往年歐米留學の際和蘭國ライデンの國立腊葉館に保存

せられあるシーボルト氏採集日本標本につき親しく精研せられたる結果を述べられたるものにしてシ氏採集の柑橘標本の寫真を挿入し其の専門の立場より論究せられたるものであるが、シーボルト先生が我國醫學の方面に貢献せられたると共に如何に博物學の方面に關し苦心研究せられたかを窺ふことが出来るのである。武藤教授の執筆にかゝるシーボルト先生が、我國最初の商業學校創立計劃者たりし事實の紹介は、是迄殆んど何人によりても注意せられざりしことを指示せるもので、吾々商業教育に關係ある者にとりて大に興味を催さしむるものである。以上甚だ簡單ではあるが、右論集一讀によりて得た感想と共に其の内容一斑を紹介した次第である。(田崎生)

(賣價金壹圓拾錢但郵稅共、長崎市役所内
同記念會)

岡田幸三郎 米國の糖業
松生雄幸 共述

鹽水港製糖株式會社發行

此書は鹽水港製糖株式會社員たる著者が糖業視察の目的を以て歐米を漫遊した際公にした『世界糖業視察』の姉妹篇として出されたもので、『世界糖業視察』では玖瑪、伯刺西爾及び亞爾然丁諸國の糖業狀態の記述を主としてあつたのであるが、本書では合衆國內甜菜、甘蔗、ポートルコ、布哇の糖業及び精製糖業を明にしたもので、著者は其の序に於て『著者が年來抱懷して居た供給方面から見た米國の糖業の研究を大體に於て終つたわけである』と云つて居る點から見ても、本書の著述の目的が窺はれると思ふ。其の内容は第一編は總論で、國內甜菜糖業、ルイジアナ糖業、ポートルコ糖業、布哇糖業の四章があり、第二編は精製糖業に關するもので、總説、精製糖業の發達、數量的考察、會社、生産費、市價精製費及び利益の六章で、結論には各地生産

費の比較が論せられて居る。尙ほ附録として米國の砂糖關稅に關し其の變遷及び關稅と市價との關係につきて研究が加へられて居る總頁三百七頁で、比較的精細深切に論述せられて居り、統計等も一九二三年迄のものを採用してあり、數字上、歐洲大戰前と其の後に關する比較を隨所に試みられて居り、經濟志並に産業政策上より見て好箇の資料であると共に、實際事業家にとりても糖業に關する貴重す可き參考資料である。斯かる有益なる好

書の著者たる岡田(第二回)松生(第十六回)の兩君共に我校出身者たることは、特に吾人が本會々員諸君と共に欣快に堪へざる所である。然るに數日前計らずも著者の一人たる松生雄幸君の訃音に接し、實に驚愕且つ痛悼に堪へざる次第である。同君は人並以上に雄健なる體軀を有し、在學中は野球部の選手等として大に活躍せられたので、今にして此の悲報に接することは君を識るものゝ意外中の意外とする所であらうと思ふ。茲に本書を紹介する

と同時に、將來我が糖業界の重鎮たる可き有爲の士たる著者を亡ふたことを恭しく哀悼痛惜するものである。(田崎生) (大正十三年九月十五日發行、非賣品)

清水孝次郎著 歐洲商業の史的的研究

香川縣高松市 宮脇開益堂發行

本書は本校第十二回卒業生にして現に縣立高松商業學校の敎諭たる清水君の著述で、歐洲中世の商業史であるが、從來の商業史とは稍や其の趣を異にし、餘程經濟史的の意義を加へたものである。即ち緒論に於て歐洲史上重大なる意義を有する民族の大遷移と中世の特徵とより説き起し、ゲルマニー諸民族の羅馬領内侵入よりチャールス大帝の西羅馬帝國再興に至る迄の西歐の情勢、中世の基督教と當時の商業、中世西歐の封建制度、莊園、都市の發達、組合制度、定期市、大市、中世の商路、サラセン人の商業、十字軍役、中世に於ける伊太利諸都市を始め英佛獨の都市の商

業、及び、ネーデルランド、並に南歐諸都市の工業等に涉りて、比較的秩序立て、明快に叙述してあり、此方面に關する主要なる著書は内外共に概ね克く參照してあり、説明の徹底を助けん爲めに數枚の地圖も入れてある。著者が多忙なる中等學校教諭の職にありながら、斯かる事業を成し遂げられたるは人並ならぬ篤學の結果と云はねばならず、譯語等に一二如何かと思はるゝものも囑目はしたが、然し全體として相當に精細なる注意と努力とを拂はれて居ることも窺はれるし、此方面に於ける一つの好著として推賞す可き價値は充分認められるのである。著者の意或は甲種商業學校生徒の參考書として提供せんとせられたのであるやも知れないが、其目的に對して恰好なるものであると同時に専門學校程度の學生の、學修の同伴とすることも出来るものである。本書は四冊を以て完成する豫定のものゝ由で、此は其の第二冊で非賣品として三百部だけ印刷せられたものであり、第一冊は

既に本年四月印行せられたそうであるが、著者自身意に滿ない點があるからとて寄贈せられなかつた。第三冊も草稿は完成して居る由であるから遠からず印行せらるゝことであらう。今回は單なる紹介をするに止め其完成を俟ちて聊か卑見を述べたいと思ふて居るが筆を擱くに當りて、吾人は斯くの如き青年篤學者の事業が豫定の成功を收める爲めに其の健康を祈り、且つ凡ての事情が都合よく進行せんことを冀ふて已まぬものである(田崎生)